

学習ノート「青谿書院記」 1

令和5年9月2日（担当 俊雄 俊彦 左起子）

原文

青谿書院記

・青谿書院、池田緝讀書處也、緝自弱冠去國游尋師訪友、
以爲學焉、其間或寓於京、或棲遲於京西松尾乃山中、
・既而又移於京、年已過壯、乃復負笈歸、其歸也無所居止、因借八鹿西
村氏之山館者四五年、而築此院、
・弘化丁未六月、實始徙焉、然後吾終焉圖定矣、院倚山而設、又與山對、兩
山相距、僅百餘步、皆不甚高、

読み

青谿書院の記

・青谿書院は池田緝の讀書の処なり。緝弱冠より国を去りて遊び、師を
尋ね友を訪い、以て学を為せり。其の間、或いは京に寓し、或いは京西の
松尾山中に棲遲す。
・既にして又京に移る。年已に壯を過ぎ、乃ち復笈を負いて帰る。其の
帰るや居止する所無し。因りて八鹿の西村氏の山館を借る者四五年にして
此の院を築く。
・弘化丁未六月、実に始めて徒る。然る後吾が終焉の図定まれり。
院は山に倚りて設け、又山と對す。両山相距たること僅かに百余歩、皆な
甚だしくは高からず。

訳文

・青谿書院は、池田緝が読書をするところである。緝は、若いとき国を出
て方々に出かけ、師を探し求め、友を訪ねて、勉学をした。その間に、時
には京都に身を寄せ、またあるときには、京都の西の松尾山中に住んだ。
・やがて再び、また京都に移り住んだ。年齢は、すでに三十歳を過ぎてい
た。それで、また荷物を持ってふるさとに帰った。帰ったものの、自分の
住まうところはなかった。それで、八鹿の西村庄兵衛氏の建物の山館を借
りていた。四五年して、この書院を建てた。
・弘化丁未（一八四七・35歳）六月、實に初めて移ってきたのだ。それで、
私の生涯の過ごし方が決まった。青谿書院は、山にもたれかかるようにし
て建て、また、向の山と対している。これらの山の間は、わずか百歩余り
だ。どちらの山もそんなには高くはない。